高島市に春を告げる 川上祭

毎年4月18日に、今津町酒波の日置神社、北仰の津野神社両社の春の祭礼である川上祭が行なわれます。氏子の対象範囲はかつて川上庄と呼ばれた現在の今津町北部からマキノ町の一部に広がっていて、市内の春の祭礼の中では比較的祭礼日が早いことから、高島市に春を告げる祭りとして紹介されることもよくあります。

はじまりはいつから？

川上祭がいつから始まったのか、それを明確に記す資料は今のところ見つかっていません。ただ、江戸時代に記された「大江保記録写」（『日置神社文書』）には、岩剣社（日置神社）の祭礼が、平安時代の長暦3年（1039年）4月に行なわれたという記載があります。また、他の古文書によると天文3年（1534年）に川上庄内の村を5つの組に分けて、祭りの当番を順番に回すことになったといい、この時に5つの組分けと、祭礼の作法等が改めて定められています。こうしたことから、川上祭は平安時代に始まり、室町時代には、現在の祭りの組織につながる組分けが確立され、祭りが運営されていたのではないかと推測できます。

踊り子

また、時代は下がりますが、祭礼の内容を記した資料としては、大正時代ころに書かれたと思われる「津野神社祭礼沿革誌」（『津野神社文書』）などが残されています。これによると、祭礼日は上の宮（日置神社）は4月初午の日、下の宮（津野神社）は4月初申の日、というように日干支によって定められていましたが、明治5年に干支による決定を廃止し、上の宮は4月21日、下の宮は23日が例祭日となりました。さらにその後、大正2年（1913年）に、両社あわせての祭礼が18日になり現在に至っています。

「津野神社祭礼沿革誌」によると、明治時代には、神輿渡御の行列に天狗・剣鉾・扇子鉾・獅子頭が供奉し、馬場（祭礼場）では、競馬や餅まきが行なわれていたとのことです。恐らく、現在よりもさらににぎやかな祭りであったことでしょう。

古式を伝えることで知られ、滋賀県選択無形民俗文化財である川上祭も、長年の間に徐々に祭礼日や行事の変容を受け入れ、現在の祭りの姿になってきたようです。

大幟（おおのぼり）

問 文化財課 ☎（32）4467

編集雑感

先日、高島森林体験学校「親子で作る学習机」の取材に伺いました。この事業は、参加者の体験活動を通して、木材の有効活用を進めるもので、伐採から机の製作に至る工程を全４回で行っています。今回はその最終段階でした。昨夏に参加者が汗を流し伐採した杉の木は、製材され、地元大工さんらの指導を受けながら、めいめいに加工し、組み立てていきます。でき上がった机は、何とも言えない温かみのある、量販品にはない輝きを放っていました。人の心と地域の遺伝子が詰まった、“オンリーワンの逸品”です。「僕もこんな机が欲しいな」と少しうらやましく思った瞬間でした。▼4月、新しい仲間との出会い、夢と希望が膨らむ季節です。子どもたちはいろんな可能性に臆することなくチャレンジして欲しい。私、おじさんもワクワクする未来へ一歩踏み出そう！！（Y）

広報たかしま 平成28年 4月号 No.195
発行▼高島市 編集▼政策部秘書広報課
〒520-1592 滋賀県高島市新旭町北畑565番地
☎0740（25）8000㈹
http://www.city.takashima.lg.jp
t-info@city.takashima.lg.jp

R100 古紙パルプ配合率100%再生紙を使用。
VEGETABLE OIL INK
不要になった広報誌は、「その他古紙」として古紙回収日に出してください。